

TRANSITION TO HEALTH (069)

電磁波環境と健康被害 ⑤

～ スマホの健康被害をなくす生体エネルギー®技術 ～

はじめに

前号では、私自身の携帯電話・スマホに対する『電磁波過敏症』を『生体エネルギー®技術』を応用して開発された携帯電話用誘導翻訳器『天音』およびスマートフォン対応の誘導翻訳器『天音S』により克服していることをお話した。

現在、「スマホ決済」「電子決済」「電子チケット」等の普及が加速している。また、東日本大震災を契機に「防災情報」「安否確認」などの緊急連絡手段としての携帯電話・スマホの有用性が認識され、「学校へのスマホ持ち込み」が推奨、容認されようとしている。

しかし、この便利で快適なツール：携帯電話・スマートフォンの電磁波に「発がんの危険性」「学習障害の危険性」が報告・警告されており、“極力安全に使う方法を模索・追及すべきである”と提案した。特に、細胞分裂の盛んな発達途上の子ども達については、『スマホの使い過ぎ』で『学力低下』はおろか『白血病』『脳腫瘍』を発症してしまうことが危惧されているので、私たち大人が賢く判断し『リスク管理』すべきであると提案した。その一つの選択肢として、「生体エネルギー®」技術を紹介した。くれぐれも右図のように“わが子の脳を調理する”ことが無いように、若いママたちには お願いしたいのである。



地球磁場を乱す人工電磁波（スマホ）に対するリスク管理

私はかつて、携帯電話でいわゆる「電磁波過敏症」を発症していた。それを『天音』『天音S』という『生体エネルギー®技術』の恩恵に与って、「スマホ」を安心して安全に使うことができている。私のような過敏な人間・子どもが、電磁波で白血病や脳腫瘍を発症してしまうのかもしれない。「過敏」という言葉を使ったが、本当は「正敏」と言いたい。この地球が本来持っているエネルギー場（ワールド・グリッド）を乱す人工電磁波に対して自然界の野生動物のように反応しているだけで、逆に正常と思っている多くの人達の方が「鈍感」になっているのではないかと思う。私は、スマホ・パソコン・放射線機器などの電磁波環境の中では、方位磁石が正確にN極（北）を指さないことを自身の医療現場で確認している。



『天音』『天音S』を使っていれば「学力低下」「白血病」「脳腫瘍」を免れるというエビデンスは今のところないが、将来、数十年後には疫学的調査が証明してくれる日がやって来るかもしれない。今からの『リスク管理』が大切である。

公益財団法人 静岡県産業労働福祉協会

〒421-0113 静岡市駿河区下川原 6 丁目 8 番 1 号

TEL054(258)4855(代) FAX054(258)4403

<http://www.kenshin-shizuoka.net>

E-mail: info@kenshin-shizuoka.net

生体エネルギー®技術：『天音S』充電の精神的ストレス、免疫力に対する効果

『天音S』の「学力低下」「白血病」「脳腫瘍」発症に対する長期的な影響・効果についてのデータはないが、精神的ストレス・免疫力に対する影響についての信頼のおけるデータがあるので、私なりの解釈を加えながら紹介してみよう。

(生体システム実践研究会 2017年4月11日発行 生体エネルギー活用事例10 (ICI研究所)より 許可を得て転載)

★「天音S充電」で受信者の精神的ストレスも改善する

携帯電話・スマートフォンから発せられる電磁波が、使用する人間にとって心理的・情動的ストレスとなり、不安が生じているという。この精神的ストレスを評価する方法に STAI (状態-特性不安尺度 STAI: State-Trait Anxiety Inventory) という検査方法がある。

右図は「天音S充電」が STAI 検査に与える影響を調べたものである。図の青色のグラフ「対照区」は天音Sを使わない通話(非天音S充電)であり、STAIの値が通話後にごくわずかに上昇しており、ストレスがかかっていることが分かる。図の赤色の「天音S(送信)」は、天音Sで充電したスマートフォン(天音S充電)から天音Sでない通常電源で充電した受信者(非天音S充電)にかけた場合であり、送信者(天音S充電)の心理的不安状態は直後から改善し、通話終了30分後にも持続していることが分かる。グラフには示されていないが、このとき受信者(非天音S充電)にも同様の効果が現れていた

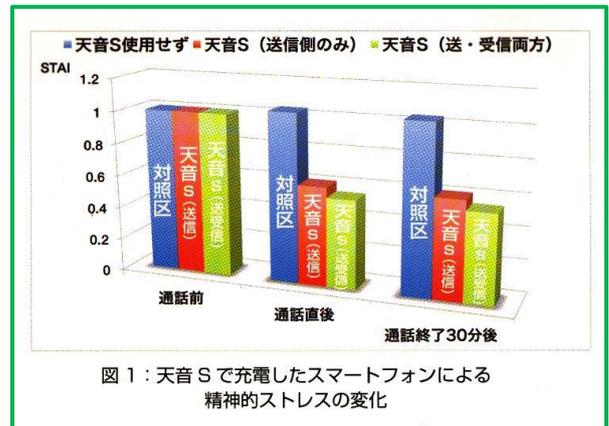


図1: 天音Sで充電したスマートフォンによる精神的ストレスの変化

のである。電話を受ける相手の「不安を改善する」「精神性も高める」という結果が得られていたのである。電話をしてあげるだけで「相手の心が安らいだ」のである。図の緑色の「天音S(送受信)」は、送信者・受信者双方が天音S充電の場合で、STAIの評価値が40%以上の減少を示し、さらに「精神的ストレスが改善」していることが分かる。通話は双方向なので、受信者側も「天音S充電」することで、送信者への好影響が加算されたと考えられる。

★「天音S充電」で受信者の免疫力も向上する

スマートフォンでの送受信で免疫力が向上するという素晴らしい研究結果が出ている。「天音S充電」の送信者はもちろんのこと、「非天音S充電」の受信者でも「活性酸素量の減少」「血中抗酸化力の上昇」「免疫力の上昇」という結果が出ている。

右図のグラフは、唾液中の分泌型の免疫グロブリンA(s-IgA)の変化を見たものである。図の青色のグラフ「対照区」は非天音S充電の場合であり、通話前後で免疫グロブリンAの量に変化は見られていない。赤色のグラフ「天音S(送信)」は「天音S充電」したスマートフォンから「非天音S充電」の受信者にかけての場合であるが、送信者(天音S充電)の免疫グロブリンA(s-IgA)の量が19%程度増加していた。グラフには示されていないが、このとき「非天音S充電」の受信者でも免疫グロブリンAが13%程度増加していた。図の緑色のグラフ「天音S(送受信)」は、送信者・受信者双方が「天音S充電」の場合で、s-IgAが20%以上30%近く増加しており、免疫力がさらに向上していることを示している。

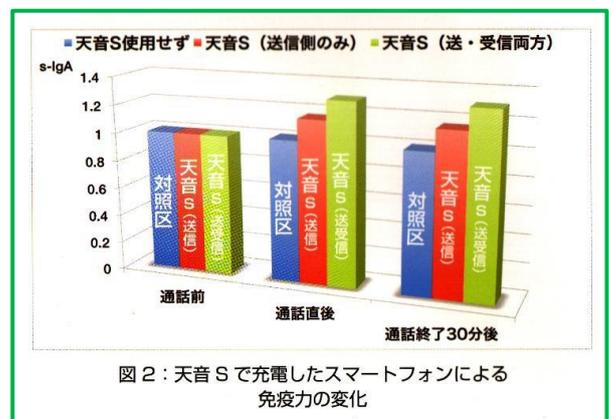


図2: 天音Sで充電したスマートフォンによる免疫力の変化

唾液中の免疫グロブリンA(s-IgA)が増加しているということから、風邪(普通感冒)やインフルエンザなどの「呼吸器感染に対する免疫力の向上」が大いに期待できるということがいえる。近年の研究では、唾液中の分泌型免疫グロブリンA(s-IgA)は上気道に侵入してきた病原体を攻撃するだけでなく、口腔・鼻咽頭内の善玉菌に対しては、これを選別して保護し、胃を通過し、小腸内にまで招き入れ、腸管粘膜層に棲息させることが分かっている。

このことから、『天音S充電』はウイルス感染・細菌感染に対する防御能(免疫力)の向上だけでなく、腸内細菌叢(フローラ)にも好影響を与え、癌・糖尿病・アレルギー・うつ病などの予防・改善にも大いに期待できるといえる。

このことから、『天音S充電』はウイルス感染・細菌感染に対する防御能(免疫力)の向上だけでなく、腸内細菌叢(フローラ)にも好影響を与え、癌・糖尿病・アレルギー・うつ病などの予防・改善にも大いに期待できるといえる。

おわりに

私たちの身体は微弱な電気現象で動いている。地球本来のエネルギー場を乱す「スマホ」などの「人工電磁波」が、我々に「健康被害」をもたらす可能性は否定しがたく、『リスク管理』が必要である。

『劣化したこの地球、バランスを失ったこの世界を 救い・癒す技術・理論: 生体エネルギー®』に早く興味・関心を持って頂きたいものと願っている。